部として籠城協議を續けたる結果前記要求書を作成午後構内營業人組合長に提出した。

營業人は突然の罷業に狼敗し同業者並鐵道局と協議し早急なる解決を計らんとしたるも從業員の態度強硬なるに驚ろき更に對策を熟議したのである。

罷業を罷行するや門司鐵道局より旅客課長來折し双方の意向を質し警察當局と共に極力斡旋に努め翌三十日午后營業人と爭議團代表と驛集會所にて第一回會見をなしたるも組合結成に干し双方讓らず遂に物別れとなるや營業人は直ちに臨時雇を以て營業を繼續し從業員は聲明書、檄を印刷前后二回に亘り各驛の立賣人に配布し持久戰を開始するに至つた。

此の間近在の勞働組合たる日本西部產業勞働組合日本石炭